

令和 2 年 5 月 26 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04511

研究課題名(和文) アジアとラテンアメリカ 地域間関係の新展開

研究課題名(英文) Asia and Latin America: New Developments of Inter-regional Relations

研究代表者

岸川 毅 (Kishikawa, Takeshi)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：60286755

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は21世紀におけるアジアとラテンアメリカの地域間関係の発展を政治・経済・社会・文化など複数の視点から解明することを目的とし、両地域での調査を通じて、多様な領域(貿易、外交、文化関係、華人社会、労働移動)における関係緊密化とそこに生じる葛藤を明らかにした。総じて両地域の関係はアジアからラテンアメリカという一方向的で非対称的な性格が強く、中国の影響力が圧倒的であり、近年は「一帯一路」のもとで展開される体系的な対外政策に対しラテンアメリカ諸国が積極的に応じている。しかし一方、日韓の文化の積極的受容や、ラテンアメリカからアジア太平洋への労働移動など、地域間関係に一定の多元性も見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究プロジェクトは、21世紀に急速に緊密化したアジアとラテンアメリカの地域間関係の諸相と全体像を、両地域の専門家の協働によって明らかにした。とりわけ中国の多方面(貿易、外交、華人社会、文化、労働)における影響の拡大を、日本や韓国と対比させながら実証的に解明したことに意義がある。

本プロジェクトではまた、地域間の共同研究のあり方について、メンバー間の歴史文化的知識の共有や、複数言語(例えば中国語、広東語、スペイン語)を用いた共同調査の経験など、効果的な協力について多様な実践知を蓄積することができた。今後これらを明確化することで広く地域間研究の発展に寄与することができる。

研究成果の概要(英文)：This joint research aims to explore the developments of inter-regional relations between Asia and Latin America in the 21st century from political, economic, social and cultural perspectives. Based on the field researches conducted in both regions, the Deepening of inter-regional relations and conflicts it produces in various areas (trade, diplomatic policy, culture, Chinese community, labor etc.) have been documented. As a whole, the relations are asymmetrical and one-way in the sense that influences go from Asia, especially from China, to Latin America. Even more so when China's Latin American policies are increasingly systematic under the "One belt, one road" initiative, in which most Latin American governments are willingly engaged. Meanwhile, the popularity of Japanese and Korean culture in Latin American markets and flows of labor force from Latin America to the Asia Pacific show a rather complicated nature of inter-regional relations.

研究分野：ラテンアメリカ地域研究、東アジア地域研究、政治学

キーワード：地域間関係 ラテンアメリカ 東アジア 中国 華僑華人

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

今日、アジア地域とラテンアメリカ地域の関係が新たな研究課題として浮上している(ここでラテンアメリカとはスペイン系・ポルトガル系の中南米諸国にカリブ海諸国を加えた地域を指し、アジアとは中国大陸、朝鮮半島、日本、台湾を含む東アジアおよび ASEAN を構成する東南アジアを指す)。両地域の関わりを扱う研究としてこれまで我が国では、歴史的な人の移動や現代の経済関係の進展を背景に、ラテンアメリカ諸国への日本人移民、日系としての定住、日本へのデカセギ、日本との貿易や投資、政府開発援助などに関して一定の蓄積がなされている。

しかし 20 世紀終盤から、両地域の関係は従来と異なる様相を呈するようになった。冷戦後グローバルに拡大し始めた自由貿易の地域的枠組み作りが APEC (アジア太平洋経済協力) や FTA (自由貿易協定) を通じて環太平洋圏を広く巻き込んで展開し、また改革開放を経て世界市場に躍り出た中国の存在感が俄かに高まりラテンアメリカにも及ぶようになった。

そこで本研究計画の代表者と分担者は、2014 年より上智大学研究機構の助成を受けて地域間関係の実態と研究動向を予備調査した結果、すでに欧米の研究者が両地域の関係について一定の成果を出しているものの、日本を含む東アジア側からの調査研究は手薄であり、地域研究の蓄積のある日本を拠点とする取組みによって欧米とは異なる視点からの研究が必要であるとの認識にいたった。

2. 研究の目的

本研究計画が目指すのは、アジアとラテンアメリカを含む環太平洋圏の動態の把握である。そこには多様な要素が含まれるが、我々は予備調査から、今日その最も動的な部分は東アジアからラテンアメリカへのモノ・カネ・ヒト・情報の流れであり、とくに中国の積極的世界展開がこの非対称的な関係の形成に関わっていること、しかし中国や日本からの歴史的な人の流れもまた今日の地域間関係に影響を及ぼしていることを認識した。これを踏まえ、取り組むべき具体的課題として以下の 7 項目を設定した。これらは大きく [A] 政治・経済的側面と [B] 社会・文化的側面に分けられる。

[A] 政治・経済的側面

- 中国の経済進出とラテンアメリカ諸国の政策対応の解明
- 中国・台湾の外交政策とラテンアメリカ諸国の対応の解明
- 上記の動きのなかでの他のアジア諸国とくに日本の経済上・外交上の位置付けの明確化

[B] 社会・文化的側面

- 中国からラテンアメリカへの歴史的な人の移動と定住の解明
- 中国の経済進出や華僑華人に対する今日のラテンアメリカ社会の反応
- 地域間関係の文化的側面の解明
- 両地域を結ぶ「太平洋」の人の移動の解明

3. 研究の方法

(1) 上記の研究目的を達成するため、研究組織を大きく政治経済関係を扱う A 班(岸川、松田、子安、谷)と社会文化関係を扱う B 班(岸川、園田、ネーヴェス、飯島)に分け、研究代表者が両方の班で調整と総括の役を担った。さらに 2 名の研究協力者(幡谷、大場)を加え研究協力を依頼した。A 班・B 班は研究上の分担を明確化するための区分であり、研究会や討論は原則として合同で行い、有効な学際的研究となるように相互の連関や接点を積極的に議論した。各メンバーは、担当領域における地域間関係の全体的動向を文献調査によって明らかにするとともに、その動向を明確に表わす事例を取り上げ、現地調査(資料収集、聞き取り、観察)を通じて実証的に解明することとした。項目ごとの具体的実施計画と分担は以下のとおり([] 内は主たる分担者)

中国の経済進出とラテンアメリカ諸国の政策対応の解明: 21 世紀における中国の対ラテンアメリカ貿易・投資の増加が、ラテンアメリカの経済と産業に各種の影響(一次産業輸出への依存、製造業の発展阻害、米国市場での競争)を及ぼす状況に対して、各国でどのような論議が交わされ、どのような政策・戦略が採用されているのか、文献調査によって全体像を描くとともに、典型的事例を通して実証的に解明する。[谷、子安、岸川]

中国・台湾の外交政策とラテンアメリカ諸国の対応の解明: 中国(中華人民共和国)はまた、台湾(中華民国)との国家承認をめぐる援助外交を通じた熾烈な競争を中米・カリブ海地域を中心に展開している。中国の関与には軍事交流も含まれるため地域の覇権国として米国も懸念も抱いている。この実態を、中国・台湾側とラテンアメリカ諸国側の複数の資料・情報によって分析する。[松田、岸川]

上記の動きのなかでの他のアジア諸国とくに日本の経済上・外交上の位置付けの明確化: 中

国の台頭による新たな地域間関係という文脈において、すでに一定の地歩を得ていた日本や韓国などアジア諸国は戦略の再考を迫られている。そこで(1)(2)の分析結果を踏まえ、とくに日本の置かれた状況や採り得る政策・戦略について考察を加える。

中国からラテンアメリカへの歴史的な人の移動と定住の解明：華僑華人の歴史については近年中国で多くの実証研究が出ているが、ラテンアメリカ諸国に関してはまだ発展途上であり、手つかずの史料も少なからずある。そこで最新の世界的研究動向を把握するとともに、とりわけ19世紀以来多くの華僑華人が入り・移動し、史料も残されている中米・カリブ海諸国での調査を通じて、中国からの移民と移住の歴史的事実を解明する。〔園田〕

中国の経済進出や華僑華人に対する今日のラテンアメリカ社会の反応：中国の経済進出は、危機感を抱く産業界やマスメディアを中心に警戒的世論を生み出しているが、近年は現地で生産や流通に関わる中国人が増えたことで社会的接触の機会も増している。しかしこれら「中国的なもの」に対するラテンアメリカ社会の反応は、いまだ情報が断片的であり調査されていない。そこで現地社会の反応を、当該国の産業構造や華人社会の地位など考慮しつつ、現地調査と比較を通して解明を試みる〔岸川〕

地域間関係の文化的側面の解明：上記の事情から中国政府は、社会的な支持や好感を醸成するためのパブリック・ディプロマシー（広報外交）にも力を入れているが、大衆文化においてはむしろ韓国、台湾、日本など中国以外の東アジア諸国の方がラテンアメリカ社会には受容されている。文化の伝播において地域間でどのようなメカニズムが働き、中国、台湾、韓国、日本がどのように差異化されているのか、発信方法や内容の比較分析と現地調査によって諸要因を特定する。〔ネーヴェス〕

両地域を結ぶ「太平洋」の人の移動の解明：アジアとラテンアメリカは環太平洋圏の一部であり、「太平洋」海域の意味も考察する必要がある。太平洋は単に華僑や日系移民が通過し、資源や製品が行き来するだけの海ではない。ハワイを始めとする太平洋の島々には華人や日系人やフィリピン人が住みつき、今日ではメキシコ人労働者がコーヒーを摘む姿も見られる。本研究ではとくにアジアとラテンアメリカ両地域から人が流れ込むハワイや米国西海岸を事例に、太平洋世界の新たな動きを明らかにする。〔飯島〕

(2) 各メンバーは上記の計画に基づき担当領域の文献調査を進めるとともに、以下の現地調査を実施した。

平成29年度：東アジア諸国のポップカルチャーの南米諸国における受容についてチリ、アルゼンチン、ブラジル（ネーヴェス）、東アジアとの経済関係についてメキシコ、コロンビア（谷）、カリブ海地域における華僑華人の定住と変容についてトリニダード（園田）、東アジア諸国と南米現地社会の関係についてペルー（岸川）、南米内の太平洋側と非太平洋側の関係についてペルー（子安）、太平洋地域におけるヒスパニック移民・労働者についてハワイ（飯島）。

平成30年度：東アジア諸国のポップカルチャーの南米諸国における受容についてメキシコ、コロンビア、ブラジル（ネーヴェス）、東アジアと中南米の経済関係についてメキシコ、コロンビア（谷）、中米諸国の対東アジア政策と国民感情についてパナマ、コスタリカ（岸川）、東アジア諸国と中米の外交関係および現地華人社会についてパナマ、コスタリカ（松田）、太平洋地域におけるヒスパニック移民・労働者についてハワイ（飯島）、中華民国の華僑政策と米州地域の華僑華人に関する資料収集のため台湾（園田、岸川）。

平成31年度/令和元年度：対外政策・対中関係についてブラジル（子安）およびペルー（松田、岸川）、南米と東アジアの社会文化交流についてアルゼンチン（大場、研究協力者）、米州出身華僑議員に関する文献調査のため台湾（岸川）。

(3) この間、研究会（2017年11月、2018年2月、2018年4月、2019年2月）を開催して進捗状況の報告、調査結果の検討、研究計画の調整を行った。新型コロナウイルスの拡大により最終年の研究会が開催できなかったが、すでに成果発信に重点を置く段階になっていたため、プロジェクトの進展への影響は限定的であった。

4. 研究成果

(1) 本研究プロジェクトは学際的な性格を持つため、メンバーはそれぞれの研究分野における学会・シンポジウム等で研究成果を発表する一方、共同での研究発表を通じて本科研プロジェクトとしての成果発信にも努めた。

共同の研究発表として第一に、アジア・アセアニア・ラテンアメリカ研究協議会（CELAO）第8回大会（2018年11月、マカオ）においてパネル「東アジア・ラテンアメリカ関係の新展開 日本からの視点」を企画し、日本から見た東アジア・ラテンアメリカ関係の歴史的背景と現状（岸川）、カリブ海地域の華僑華人史（園田）、東アジアポップカルチャーのラテンアメリカ諸国における受容（ネーヴェス）、ラテンアメリカへの中国の経済進出（谷）について報告した。大

会の共通テーマが中国・ラテンアメリカ関係であったため、日本における研究動向と視点を提示するとともに、中国、オセアニア、米国、中南米などアジア太平洋地域の関心を同じくする研究者と広く交流する機会となった。[研究項目]

- Takeshi Kishikawa, "Recent Developments of East Asia-Latin America Relations: An Overview"
- Setsuko Sonoda, "Achieving Economic Success and Emerging as Allied Nationals: A Historical Study of the Chinese in British Caribbean"
- Mauro Neves, "K-pop or J-pop: Which way to go in Latin America?"
- Hiroyuki Tani, "Too Strong Competitor, Complement to NAFTA, or Potential Market?: China's Impact on Mexican Economy"

第二に、日本国際政治学会 2019 年度研究大会（2019 年 10 月、新潟）において分科会「ラテンアメリカ・中国関係の新展開」を企画し、コスタリカを始めとする中米諸国の政治社会に中国のもたらす影響（岸川）、中国の対ラテンアメリカ政策と近年の変容（松田）、ブラジル対中外交のボルソナーロ新政権における継続性と変化（子安）に関する報告を行った。中国の世界戦略への関心の高まりから、パネルはラテンアメリカ・東アジア両地域の専門家を含む多数の参加者を得て有意義な議論の場となったほか、学術的・実務的観点からの様々なコメントや今後の情報提供の要請があった。3 つの報告論文は加筆のうえ学術誌『イベロアメリカ研究』（今年度秋に発行予定）の特集号に掲載を予定している。[研究項目]

- 岸川毅「中国の台頭はラテンアメリカに何をもたらすのか - 中米諸国の事例から」
- 松田康博「中国の対ラテンアメリカ政策 - 21 世紀の言説と現実」
- 子安昭子「変化する国際環境とブラジルの対中外交 - ボルソナーロ政権を中心に」

第三に、第 1 回ラテンアメリカ中国研究国際会議（2019 年 11 月、コスタリカ）において、中国の華僑政策とトリニダード華人（園田）および中華民国立法院におけるラテンアメリカ華僑議員（岸川）をテーマとする報告を行った。中国語資料を駆使して地域間関係史を解明する試みに対し、現地の研究者や実務家から多様な質問・コメントが寄せられた。両報告論文は査読を経てコスタリカ大学から出版されることが決定している（最終稿を提出済み）。近年増加しつつあるラテンアメリカの中国研究者との議論と交流の重要な機会となり、今後の研究協力の提案を複数受けた。[研究項目]

- Setsuko Sonoda, "China's Overseas Chinese Affairs in the British West Indies in the 1930s and 40s: A Historical Analysis of the Chinese in Trinidad"
- Takeshi Kishikawa, "The End of the ROC's Extraterritorial Politics: Overseas Chinese Representatives in the Liberalization Period"

(2) メンバーが個人で行った主な研究成果について概要を述べると（詳しくは「5. 主な研究発表等」を参照）まず [A] 政治・経済的側面に関して、谷がメキシコの農業をグローバル経済とくにアジア太平洋の産業貿易構造のなかで位置づける研究報告と論考、子安がブラジルの外交政策の変容について日本や中国などアジア諸国との関係を含めて議論する論考、松田が中南米地域における中台関係の変容についての論考およびその背景にある日米中台の外交関係を解説する講演を行っている。[研究項目]

[B] 社会・文化的側面に関しては、園田が中華民国期の対中南米華僑政策（僑務）とカリブ海地域の華人社会の形成・変容を主としてトリニダードの事例をもとに明らかにする研究発表や講演を多数行っており、一部はすでに国際学術誌に掲載されている。ネーヴェスは中南米諸国における東アジアポップカルチャーの受容をとくに日本と韓国に焦点を当てて分析する研究発表と講演を行い、関連する論考をブラジルで出版している。飯島はハワイのコーヒー産業を事例に太平洋地域における人の流れを解明する研究報告を行い論考を発表している[研究項目]

(3) 個々のメンバーの調査研究の積み上げと共同での成果発信を通じて、本研究プロジェクトは着実に成果をあげている。先述のとおり、すでに出版が決定もしくは準備が進んでいる報告論文が多数あり、今年度中に業績はさらに増加することが見込まれる。

成果を総括するならば、第一に、両地域での現地調査を通じて、多様な領域（貿易と投資、外交政策、文化の受容、華人社会の形成と変容、労働移動）における関係緊密化とそこで生じている葛藤を明らかにすることができた。アジア太平洋において形成されつつある新たな地域間関係を解明する一連の実証研究を生み出したことに大きな意義がある。一方、日本の政策の検討 [項目] については、学会や研究会で外交関係者との意見交換や議論の機会があったものの、コロナウィルスの感染拡大で最終年に予定していた実務家を招いての報告会が開催できなかったこともあり、十分には進まなかった。今後継続して取り組みたい。

第二に、アジア・ラテンアメリカ関係の全体像を描くという目的については、共同の現地調査、

研究会での情報共有、共同での学会発表を通して、研究項目相互の関連性を見出しながら全体像の把握を進めた。その結果、両地域の関係は総じてアジアからラテンアメリカという一方向的で非対称的な性格を持ち、今日では中国の影響力が突出していること、近年は「一帯一路」のもと体系的な対外政策が展開され、ラテンアメリカ諸国も積極的に応じることで新たな段階に入っていることなどが明確になった。しかし一方、文化的次元においては日本や韓国のポップカルチャーが積極的に受容され中国を凌いでいること、ラテンアメリカからアジア太平洋への労働移動も起こっていることなど、両地域の関係には多元的要素もあることを確認できた。

なお、成果の取りまとめに関して、当初は商業出版を目指していたが、当分は学術的成果の積み重ねを優先する方針に改めた。前述のとおりプロジェクトの実施期間中に中国の対ラテンアメリカ政策が新たな段階に入り、追加して調査・検証すべき重要事例が少なからず見出されたことから、時宜を得た的確な全体像を示すには、いままさし実証の積み上げが必要との認識に至ったことが理由である。したがって本課題の研究期間の終了後も共同研究は継続させる。

第三に、本研究プロジェクトが地域間研究における言語の運用について参考となり得る実践的知見を得たことを加えたい。調査研究・成果発表両面において本科研メンバーは多数の言語を使用した（日本語、中国語、広東語、韓国語、英語、スペイン語、ポルトガル語）。チームとしての多言語性が地域を跨ぐ研究交流やネットワークの構築に大いに役立っただけでなく、系統の異なる言語を話すメンバーで共同調査を行った経験（中南米の華僑華人社会の聞き取り調査ではスペイン語、中国語、広東語をカバーすることで効果的な情報収集ができたこと）などから、局面に応じた研究協力について各種の実践知を積み重ねることができた。本プロジェクトへの参加がメンバーに新たな言語の習得を促すといった相乗効果もあった。これらの経験を整理し明確化することで広く地域間研究の実践上の方法論の発展に役立てることができるであろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Setsuko Sonoda	4. 巻 54
2. 論文標題 Achieving Economic Success and Social Mobility: The Chinese Community in Trinidad, British Caribbean before 1949	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Canadian Journal of History/Annales canadiennes d'histoire	6. 最初と最後の頁 315-344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Mariko Iijima	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese Diasporas and Coffee Production	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Oxford Research Encyclopaedia of Asian History	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 子安昭子	4. 巻 52
2. 論文標題 ブラジル社会の「怒り」と大統領選挙	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 子安昭子	4. 巻 19
2. 論文標題 世界通商環境の変化にどう向き合うか テメル政権によるメルコスル再構築への動きと日本	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Encontros Lusofonos	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 Takeshi Kishikawa
2. 発表標題 Recent Developments of East Asia-Latin America Relations: An Overview
3. 学会等名 8th Conference of Latin American Studies Council of Asia and Oceania (CELAO), Macau (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Setsuko Sonoda
2. 発表標題 Achieving Economic Success and Emerging as Allied Nationals: A Historical Study of the Chinese in British Caribbean
3. 学会等名 8th Conference of Latin American Studies Council of Asia and Oceania (CELAO), Macau (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mauro Neves
2. 発表標題 K-pop or J-pop: Which way to go in Latin America?
3. 学会等名 8th Conference of Latin American Studies Council of Asia and Oceania (CELAO), Macau (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroyuki Tani
2. 発表標題 Too Strong Competitor, Complement to NAFTA, or Potential Market?: China's Impact on Mexican Economy
3. 学会等名 8th Conference of Latin American Studies Council of Asia and Oceania (CELAO), Macau (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Iijima
2. 発表標題 Coffee Production in the Asia-Pacific: The Circulation of Japanese People, Plants and Production Skills before WWII
3. 学会等名 The Organization of American Historians Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroyuki Tani
2. 発表標題 La exportacion del aguacate de Mexico y los otros paises de la Alianza del Pacifico al mercado japones
3. 学会等名 IV Simposio Internacional: Relaciones entre America Latina y Asia Pacifico frente a la transformacion global, Mexico City (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷 洋之
2. 発表標題 メキシコ中西部における蔬菜生産の動向：「伝統」と「近代」の「アダプタ」としての企業
3. 学会等名 ラテン・アメリカ政経学会第55回定期大会、神田外語大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 中国の対ラテンアメリカ政策 - 21世紀の言説と現実
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会、新潟
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸川毅
2. 発表標題 中国の台頭はラテンアメリカに何をもたらすのか - 中米諸国の事例から
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会、新潟
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 子安昭子
2. 発表標題 変化する国際環境とブラジルの対中外交 - ボルソナーロ政権を中心に
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会、新潟
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田節子
2. 発表標題 “言語圏・同盟国”再移動による政治的社会的上昇 - ディアスポラ華人を通して
3. 学会等名 2019年日本移民学会年次大会、天理大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田節子
2. 発表標題 英領植民地で中国系住民はいかに社会的上昇を図ったか：20世紀前半トリニダード事例分析
3. 学会等名 早稲田大学政治経済学部グローバル経済史研究部会、早稲田大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田節子
2. 発表標題 カリブ海地域中国系コミュニティ空間の発展と変容：「帝国」イギリスと中国国民党越境政治がつくる重層性（1930～1960年代）
3. 学会等名 ラテンアメリカ学会2018年度年次大会、愛知県立大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 美国特朗普政権対两岸関係の影響：從多重不確定性に戰略矛盾的深化
3. 学会等名 第九屆“中日關係中的台灣問題”學術研討會、上海國際問題研究院、上海
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Iijima
2. 発表標題 Sugar Islands in the Pacific in the Early 20th Century: Taiwan as a Protege of Hawaii
3. 学会等名 Sophia Symposium: Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants, Womanhood, Tokyo
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Kishikawa
2. 発表標題 The End of the ROC's Extraterritorial Politics: Overseas Chinese Representatives in the Liberalization Period
3. 学会等名 I Congreso Internacional Latino (e hispano) americanista de Estudios sobre China, San Jose (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Setsuko Sonoda
2. 発表標題 China's Overseas Chinese Affairs in the British West Indies in the 1930s and 40s: A Historical Analysis of the Chinese in Trinidad
3. 学会等名 I Congreso Internacional Latino (e hispano) americanista de Estudios sobre China, San Jose (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Setsuko Sonoda
2. 発表標題 New Themes in Transpacific History: Interconnections between Chinese Transnational Institutions and Nation-States and Chinese Communities in the Americas in the Nineteenth Century
3. 学会等名 International Seminar of Global History, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Setsuko Sonoda
2. 発表標題 Interconnections between Nation-States and Chinese in the Americas in the Twentieth Century
3. 学会等名 International Seminar of Global History, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mauro Neves
2. 発表標題 Hallyu
3. 学会等名 Centro Cultural Coreano, Mexico City (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mauro Neves
2. 発表標題 Tres generos, una historia: Enka, aidoru y j-pop
3. 学会等名 Universidad de Los Andes, Bogota (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuda Yasuhiro
2. 発表標題 A Dilemma between Security & Economy: Japan's Strategy for the "New Cold-War"
3. 学会等名 The Centre for International Security Studies (CISS), The University of Sydney (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Setsuko Sonoda
2. 発表標題 The Transnationalism of the National Salvation Activities by the Chinese in Port of Spain, Trinidad, during the Sino-Japanese War of 1937-45
3. 学会等名 British Association for Chinese Studies 2017 annual conference, University of Glasgow (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Setsuko Sonoda
2. 発表標題 Voices from the Chinese Indentured Labourers in Spanish Colonies: Reports by China's First Official Investigations in South America in the 1870s
3. 学会等名 Indenture Abolition Centenary Conference, 2017 International Conference on the Centenary of the Abolition of Indentureship in the British Empire, Senate House, University of London (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 戦後日本の亜太外交
3. 学会等名 南開大学歴史学院南開史学名人講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuhiro Matsuda
2. 発表標題 The Prospects for Improved Sino-Japanese Relations Following the 19th Party Congress
3. 学会等名 Department of Political Science, Carlton University（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Matsuda
2. 発表標題 The Strategic Impact of the Taiwan Issue on the U.S.-Japan Alliance
3. 学会等名 Japanese Views on China and Taiwan: Implication for the U.S.-Japan Alliance, the Center for Strategic and International Studies (CSIS)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Matsuda
2. 発表標題 Sino-Japanese Relations Are More Stable Than They Seem
3. 学会等名 East-West Center Washington（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mauro Neves
2. 発表標題 ラテンアメリカにおけるK-pop浸透と国際関係
3. 学会等名 上智大学国際関係研究所シンポジウム「グローバル化と文化変容」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mauro Neves
2. 発表標題 0 K-Pop World Festival e a America Latina
3. 学会等名 Centro de Estudos Orientais, Pontificia Universidade Catolica de Sao Paulo (PUC-SP) (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Marco Souza, Cecilia Noriko Ito Saito, Mauro Neves	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Intermeios	5. 総ページ数 350
3. 書名 Japao em movimento: Cultura, espacio e outras territorialidades	

1. 著者名 清水達也、谷 洋之、竇劔久俊、山田七絵、辻一成、荒神衣美、塚田和也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 241
3. 書名 途上国における農業経営の変革	

1. 著者名 永原陽子、園田節子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 人々がつなく世界史	

1. 著者名 中国研究所、園田節子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 510
3. 書名 中国年鑑2018	

1. 著者名 上智大学アメリカ・カナダ研究所、上智大学イベロアメリカ研究所、上智大学ヨーロッパ研究所、飯島真里子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 332
3. 書名 グローバル・ヒストリーズ：「ナショナル」を越えて	

1. 著者名 華僑華人の事典編集委員会、園田節子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 620
3. 書名 華僑華人の事典	

1. 著者名 川島真、遠藤貢、高原明生、松田康博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 中国の外交戦略と世界秩序	

1. 著者名 松田康博、清水麗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 228
3. 書名 現代台湾の政治経済と中台関係	

1. 著者名 堀坂浩太郎、子安昭子、竹下幸治郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 348
3. 書名 現代ブラジル論：危機の実相と対応力	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯島 真里子 (Iijima Mariko) (10453614)	上智大学・外国語学部・准教授 (32621)	
研究分担者	谷 洋之 (Tani Hiroyuki) (40278213)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Neves Mauro Jr (Neves Mauro) (40286753)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究分担者	子安 昭子 (Koyasu Akiko) (50296943)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究分担者	松田 康博 (Matsuda Yasuhiro) (50511482)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	園田 節子 (Sonoda Setsuko) (60367133)	兵庫県立大学・経済学部・教授 (24506)	
研究協力者	幡谷 則子 (Hataya Noriko)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究協力者	大場 樹精 (Ohba Kodama)		